



2024年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年11月14日

上場会社名 株式会社創建エース
コード番号 1757 URL <http://www.souken-a.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西山 由之
問合せ先責任者 (役職名) 管理本部長 (氏名) 南條 和広
四半期報告書提出予定日 2023年11月14日
配当支払開始予定日
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
TEL 03-3344-0011

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第2四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	840		587		606		605	
2023年3月期第2四半期	2,110		92		102		54	

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 605百万円 (%) 2023年3月期第2四半期 54百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	2.30	
2023年3月期第2四半期	0.21	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第2四半期	1,694	811	46.7	2.96
2023年3月期	1,500	1,075	71.6	4.12

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 791百万円 2023年3月期 1,065百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期		0.00			
2024年3月期		0.00			
2024年3月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期									

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期2Q	267,651,756 株	2023年3月期	258,251,756 株
期末自己株式数	2024年3月期2Q	15,347 株	2023年3月期	14,989 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期2Q	263,043,988 株	2023年3月期2Q	258,237,152 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(会計方針の変更)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	12
(重要な後発事象)	14
3. その他	15
継続企業の前提に関する重要事象等	15

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が薄まりつつある中、コロナ過で蓄積された過剰貯蓄や実質賃金の上昇が原資となる個人消費の回復や、これまで先送りにされてきた企業の設備投資の増加などが見込まれ、緩やかに回復しております。しかし、依然続くロシアによるウクライナに対する軍事侵攻、日米金利差の拡大による円安ドル高の進行など国内外ともに経済の先行きが不透明な状況となっております。

こうした情勢下において、売上高は840,921千円と前第2四半期連結累計期間と比べ1,269,137千円の減少（60.1%減）、営業損失は587,056千円（前第2四半期連結累計期間は営業利益92,421千円）、経常損失は606,064千円（前第2四半期連結累計期間は経常利益102,738千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は605,489千円（前第2四半期連結累計期間は親会社株主に帰属する四半期純利益54,535千円）となりました。

セグメントの経営成績を示すと、次のとおりであります。

I 建設事業

当セグメントにおきましては、売上高は797,744千円となり、前第2四半期連結累計期間と比較して1,270,470千円の減少（61.4%減）、セグメント損失（営業損失）は366,532千円（前第2四半期連結累計期間セグメント利益（営業利益）は263,347千円）となりました。

この主な要因は、これまで主要な取引先であった邦徳建設との取引を停止したことに伴う、売上の減少及び、高額な未回収滞留債権の発生に伴う貸倒引当金繰入額計上等の影響によるものです。

II コスメ衛生関連事業

当セグメントにおきましては、売上高は8,391千円となり、前第2四半期連結累計期間と比較して7,171千円の減少（46.1%減）、セグメント損失（営業損失）は5,251千円（前第2四半期連結累計期間はセグメント利益（営業利益）899千円）となりました。

この主な要因は、新型コロナウイルス感染症が収束し、商品の需要が低下し販売数が伸び悩んだことによるものです。

III その他の事業

その他の事業には報告セグメントに含まれない事業を含んでおります。当セグメントにおきましては、売上高34,784千円（前第2四半期連結累計期間において当該事業の売上高はありませんでした。）。セグメント利益（営業利益）は15,382千円（前第2四半期連結累計期間はセグメント損失（営業損失）2,357千円）となりました。

この主な要因は、事業譲受により取得した、アクア事業の売上が加わったことによるものです。

(2) 財政状態に関する説明

① (財政状態の分析)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は1,694,905千円となり、前連結会計年度末と比較して194,186千円の増加(12.9%増)となりました。

(資産)

流動資産は1,178,212千円となり、前連結会計年度末と比較して286,459千円の減少(19.6%減)となりました。この主な要因は、滞留債権に対する引当計上に伴う貸倒引当金396,525千円の増加等によるものであります。

固定資産は516,693千円となり、前連結会計年度末と比較して480,647千円の増加(1333.3%増加)となりました。この主な要因は、事業譲受による営業権413,483千円の増加及び、事務所移転による建物及び構築物20,980千円の増加及び敷金等の増加47,883千円等によるものであります。

(負債)

流動負債は846,973千円となり、前連結会計年度末と比較して450,943千円の増加(113.9%増)となりました。この主な要因は、新規事業を行うための資金調達に伴う短期借入金600,000千円の増加等によるものであります。

固定負債は36,207千円となり、前連結会計年度末と比較して6,583千円の増加(22.2%増)となりました。特筆すべき増減はありません。

(純資産)

純資産は811,723千円となり、前連結会計年度末と比較して263,339千円の減少(24.5%減)となりました。この主な要因は、新株予約権行使に伴う資本金及び資本準備金の増加332,290千円、及び当期純損失605,489千円などによるものであります。

② (キャッシュ・フローの状況の分析)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は19,089千円となり、前第2四半期連結累計期間と比較して47,350千円の減少(71.3%減)となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは495,429千円の支出(前第2四半期連結累計期間は26,553千円の収入)となりました。

この主な要因は、滞留債権に対する貸倒引当金計上を含む当期純損失602,507千円(内貸倒引当金影響396,525千円)及び前期計上の法人税・消費税の納税126,567千円などによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは494,738千円の支出(前第2四半期連結累計期間は12,021千円の支出)となりました。

この主な要因は、新事業開始のため営業権416,958千円の取得、事務所移転に伴う固定資産の増加及び敷金等の増加などによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは942,150千円の収入(前第2四半期連結累計期間は40,013千円の支出)となりました。

この主な要因は、新規事業を行うための資金調達としての借入実行による収入600,000千円及び新株予約権行使による株式発行に伴う収入332,290千円などによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、ゆるやかに回復の傾向がみられましたが、依然として地政学的リスクや円安ドル高の進行など、経済の先行きが不透明な状態が続いております。

このように経営環境の不確実性が高まる中、当社は、2023年6月に開催された第59回定時株主総会をもって経営陣の刷新を行いました。

新経営陣のもと、新たな経営方針により事業リストラ及び財務リストラを断行し、既存事業の再編、新規事業分野への展開を進めております。

2024年3月期の連結業績予想につきましては、旧体制より引き継いだ業績目標等の整合性の確認、業務提携等の必要性の検討など、業績への影響額を合理的に算出することが難しいことから、通期業績予想について未定としております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	67,107	19,089
売掛金	4,134	22,793
完成工事未収入金及び契約資産	1,096,397	940,774
商品及び製品	132,684	157,298
原材料及び貯蔵品	912	-
未成工事支出金	-	24,210
前渡金	134,182	317,795
未収消費税等	-	61,874
未収入金	6,447	8,227
短期貸付金	949	949
その他	31,139	31,007
貸倒引当金	△9,283	△405,808
流動資産合計	1,464,671	1,178,212
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	8,045	29,025
減価償却累計額	△892	△563
建物及び構築物（純額）	7,153	28,462
車両運搬具	6,030	6,030
減価償却累計額	△3,946	△4,236
車両運搬具（純額）	2,083	1,794
工具、器具及び備品	9,891	10,856
減価償却累計額	△7,866	△3,275
工具、器具及び備品（純額）	2,024	7,580
その他	40	1,305
有形固定資産合計	11,302	39,142
無形固定資産		
のれん	-	413,483
その他	8,744	540
無形固定資産合計	8,744	414,024
投資その他の資産		
破産更生債権等	1,991,668	1,836,660
差入保証金	23,851	71,734
長期未収入金	952,527	952,527
長期貸付金	879,944	879,944
その他	2,276	1,920
貸倒引当金	△3,834,268	△3,679,260
投資その他の資産合計	15,998	63,526
固定資産合計	36,046	516,693
資産合計	1,500,718	1,694,905

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	194,381	129,924
買掛金	984	2,732
短期借入金	43,000	643,000
未成工事受入金及び契約負債	-	23,650
未払金	18,888	35,167
未払法人税等	63,882	2,975
未払消費税等	66,319	-
その他	8,574	9,524
流動負債合計	396,030	846,973
固定負債		
長期預り保証金	19,090	26,090
退職給付に係る負債	3,478	3,978
完成工事補償引当金	3,275	2,780
その他	3,780	3,358
固定負債合計	29,624	36,207
負債合計	425,655	883,181
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,641,760	10,807,905
資本剰余金	3,880,366	4,046,511
利益剰余金	△13,451,065	△14,056,554
自己株式	△5,923	△5,939
株主資本合計	1,065,137	791,923
新株予約権	9,925	19,800
純資産合計	1,075,062	811,723
負債純資産合計	1,500,718	1,694,905

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 （四半期連結損益計算書）
 （第2四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）
売上高	2,110,058	840,921
売上原価	1,804,977	743,196
売上総利益	305,081	97,724
販売費及び一般管理費	212,659	684,781
営業利益又は営業損失（△）	92,421	△587,056
営業外収益		
受取利息	0	0
貸倒引当金戻入額	10,134	5,759
その他	628	716
営業外収益合計	10,764	6,477
営業外費用		
支払利息	386	109
株式交付費	-	8,115
支払手数料	0	-
固定資産処分損	60	14,618
その他	-	2,642
営業外費用合計	447	25,485
経常利益又は経常損失（△）	102,738	△606,064
特別利益		
子会社株式売却益	3,638	3,557
特別利益合計	3,638	3,557
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	106,377	△602,507
法人税、住民税及び事業税	51,841	2,981
法人税等合計	51,841	2,981
四半期純利益又は四半期純損失（△）	54,535	△605,489
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	54,535	△605,489

（四半期連結包括利益計算書）
（第2四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）
四半期純利益又は四半期純損失（△）	54,535	△605,489
四半期包括利益	54,535	△605,489
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	54,535	△605,489
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

（3）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	106,377	△602,507
減価償却費	1,854	2,546
のれん償却額	-	3,474
貸倒引当金の増減額（△は減少）	1,260	396,525
賞与引当金の増減額（△は減少）	△729	-
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	898	-
株式交付費	-	8,115
受取利息及び受取配当金	0	-
支払利息	386	109
子会社株式売却損益（△は益）	△3,638	-
売上債権の増減額（△は増加）	△69,770	136,963
棚卸資産の増減額（△は増加）	4,661	△47,910
前渡金の増減額（△は増加）	30	△183,612
前払費用の増減額（△は増加）	△1,317	-
仕入債務の増減額（△は減少）	△24,597	△62,709
固定資産売却損益（△は益）	-	70
固定資産除却損	-	14,548
未収入金の増減額（△は増加）	2,611	-
未収消費税等の増減額（△は増加）	-	△66,729
未成工事受入金の増減額（△は減少）	-	23,650
未払金及び未払費用の増減額（△は減少）	△4,586	14,932
未払消費税等の増減額（△は減少）	-	△59,838
預り金の増減額（△は減少）	264	-
その他	18,137	△9,059
小計	31,840	△431,432
利息及び配当金の受取額	0	-
利息の支払額	△386	△109
法人税等の支払額	△4,900	△63,888
営業活動によるキャッシュ・フロー	26,553	△495,429
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,593	△36,897
のれんの取得による支出	-	△416,958
差入保証金の差入による支出	△340	△48,436
差入保証金の回収による収入	55	553
預り保証金の受入による収入	-	7,000
ソフトウェアの取得による支出	△1,800	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	△8,343	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	△12,021	△494,738
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	-	600,000
新株予約権の行使による株式の発行による収入	-	332,290
新株予約権の発行による収入	-	9,875
役員からの短期借入の返済による支出	△40,000	-
自己株式の取得による支出	△13	△15
財務活動によるキャッシュ・フロー	△40,013	942,150
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△25,481	△48,017
現金及び現金同等物の期首残高	91,921	67,107
現金及び現金同等物の四半期末残高	66,439	19,089

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

第2四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

当社グループは、前連結会計年度において親会社株主に帰属する当期純利益299,358千円を計上したものの、当第2四半期連結累計期間においては605,489千円の親会社株主に帰属する四半期純損失を計上いたしました。また、営業キャッシュ・フローにつきましては、マイナスの状況で、当社グループはこれら継続する当該状況を改善すべく事業再構築と企業価値の向上ならびに管理体制の強化に向けて取り組んでおりますが、当第2四半期連結累計期間において当該状況が改善するまでには至りませんでした。

当該状況が改善されない限り、当社グループが事業活動を継続するために必要な資金の調達が困難となり、債務超過に陥る可能性が潜在しているため、当社グループには継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

四半期連結財務諸表提出会社である当社は、当該状況を解消、改善すべく、以下のとおり対応してまいります。

上記のような状況の下、現在の当社グループには足元の業績回復策と財務体質の改善が急務であると判断しており、社会的な課題と結び付いた取り組みを行うことで、社会貢献を実現しつつ、当社グループ全体の事業成長と財務体質の改善を実現していくことを目指しております。

具体的には、引き続き当社の祖業である建設業に注力し当社グループの土台を固め、安定的な黒字体質を確立させていくことを優先課題としつつ、事業譲受により取得した「アクア事業」を収益の柱として成長させるために当社のリソースを投入し、事業拡大を目指してまいります。

また、財務体質の改善も優先課題の一つと考えており、2023年6月に開催された株主総会で選任され、刷新された経営陣の元、徹底した経費削減及び不採算事業の見直しなどをおこなってまいりました。引き続き更にグループとしての合理化・効率化を進め、財政基盤の強化を図ってまいります。

（会計方針の変更）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）
該当事項ありません。

（セグメント情報等）

I 前第2四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				その他(注)1	調整額(注)2	四半期連結財務諸表計上額
	建設事業	オートモービル関連事業	コスメ衛生関連事業	合計			
売上高							
外部顧客への売上高	2,068,215	26,279	15,563	2,110,058	-	-	2,110,058
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	2,068,215	26,279	15,563	2,110,058	-	-	2,110,058
セグメント利益又は損失(△)	263,347	△28,429	899	235,816	△2,357	△141,037	92,421

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「投資事業」及び「不動産事業」を含んでおります。また、株式会社ら猫バンクにおいて、会社設立及び事業開始に向けた費用2,355千円を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない本社管理部門に係る一般管理費であります。
3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			その他(注)1	調整額(注)2	四半期連結財務諸表計上額
	建設事業	コスメ衛生関連事業	合計			
売上高						
外部顧客への売上高	797,744	8,391	806,136	34,784	-	840,921
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	797,744	8,391	806,136	34,784	-	840,921
セグメント利益又は損失(△)	△366,532	△5,251	△371,784	15,382	△230,653	△587,056

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業であり、「アクア事業」等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない本社管理部門に係る一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、従来、報告セグメントとして記載しておりました「オートモービル関連事業」については、株式会社JPマテリアルの全株式を譲渡したことに伴い、報告セグメントから除外しております。

（重要な後発事象）
該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

第2四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年9月30日）

当社グループは、第59期において営業利益296,252円を計上したものの、第1四半期連結会計期間では四半期営業損失30,656千円、当第2四半期連結累計期間におきましては四半期営業損失587,056千円を計上いたしました。また、営業キャッシュ・フローにつきましてはマイナス495,429千円を計上いたしました。当社グループはこれら当該状況を改善、解消すべく経営陣を刷新した現体制の元、事業再構築と企業価値の向上並びに管理体制の強化に向けて取り組んでおりますが、当第2四半期連結会計期間において、当該状況が改善するまでに至りませんでした。

当該状況が改善されない限り、当社グループが事業活動を継続するために必要な資金の調達が困難となり、債務超過に陥る可能性が潜在しているため、当社グループには継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

四半期連結財務諸表提出会社である当社は、当該状況を解消すべく、引き続き収益体質及び営業キャッシュ・フローの改善をするための対応策を講じてまいります。

上記のような状況の下、現在の当社グループには足元の業績回復策と持続性のある企業価値向上策の二つが必要不可欠であると判断しており、社会的な課題と結び付いた取り組みを行うことで、社会貢献を実現しつつ、当社グループ全体の事業成長と財務体質の改善を実現していくことを目指しております。

具体的には、引き続き当社の祖業である建設業に注力し当社グループの土台を固め、安定的な黒字体質を確立させていくことを優先課題としつつ、事業譲受により取得した「アクア事業」を収益の柱として成長させるために当社のリソースを投入し、事業拡大を目指してまいります。

また、財務体質の改善も優先課題の一つと考えており、2023年6月に開催された株主総会で選任され、刷新された経営陣の元、徹底した経費削減及び不採算事業の見直しなどをおこなってまいりました。引き続き更にグループとしての合理化・効率化を進め、財政基盤の強化を図ってまいります。